

# こちらフリースクールです。

## フリースクールの1学期

4月から早いもので、5ヶ月が経ちました。フリースクールもまったりと2学期が始まっています。今年度のフリースクールを振り返ると、すでに珠玉の思い出たちが溢れております。今年度は初めから、新メンバーが少しずつ増え、フリースクールのリビングの笑い声がどんどん大きくなっていっています。新しく入った子は、きっと緊張しながら、自分の居場所を少しずつ感じ、今までいたメンバーは、後輩ができ、少し大きくなったその背中を見せている気がしました。子ども同士が心を開き初め、少しずつうちとけ合っ、お互いをお互いの居場所にしていったり、まったりとしたその空間自体に居場所を感じたり、こうしてそれぞれの居場所ができていくんだなとひしひしと感じております。

今年大きな出来事の1つが、福大ウォークの復活でした。フリースクールから福島大学まで歩くという人気

企画だったのですが、震災後、放射能の影響を懸念し実施できずにいました。震災から4年がたち、いよいよ再復活となったのです。今年度は、福大ウォーク初参加というフリースクールメンバーと、ユースプレイスの若者たちで、3時間半の道のりを歩ききったのですが、疲れきった足の感覚と同時に、何とも言えない心の達成感、一生残る気がします。「あの時めっちゃ疲れたよね。」こんな風に、大きくなって一緒に語れる思い出、そんな人と人とを繋ぐ思い出がフリースクールの中では少しずつ作られていってるんですね。

フリースクールのキャンプは、毎年、「どんなキャンプにしたい?」という思いから、子ども主体でつくっていき



ます。どんな雰囲気なら参加しやすいか、どんな企画がしたいか、何を食べたいか、幾度も話し合いを重ねます。時には違う意見が出る時もちろろんあります。そんな時、フリースクールでは、相手の意見をねじ伏せるのではなく、お互いの意見を大事にしようとするのです。だからこそ話し合いには時間が掛かります。その時間も含め、フリースクールのキャンプなんです。今年のキャンプもまた、体はもちろん、心も成長できる機会になった気がします。



### これからの活動予定

#### みんなの家@ふくしま

●札幌からやってくる!人形劇団「こぐま座」  
9月18日(金) (1回目)11:00~ (2回目)15:30~

#### フリースクールビーンズふくしま

●おやまめの会(フリースクールに通っている利用者さんの親御さんの集まり)  
9月26日(土) 10:00~12:00

●親の会(不登校のお子さんのおられる親御さんの集まり)  
9月26日(土) 13:30~15:30

### 編集後記

今年は特別暑かった!と思っていたらお盆を過ぎたら今度は長雨で、早くもこたつをつけてしまいました。早いもので今年度も半分が過ぎました。総会の後に会員の皆様と一緒に何かをしよう!というところから始まり、今回わらじ踊りに参加。そしておやまめの会と。今回の通信では会員の方や地域の方からのご寄稿もいただきました。みなさまと一緒に創っていくビーンズでこれからも行きたいなと思っている今日この頃です。



●ビーンズふくしまのホームページ はこちらへアクセス → <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>

# ビーンズ通信

●発行元  
特定非営利活動法人  
ビーンズふくしま  
〒960-8066 福島県福島市矢矧町22-5 2F  
TEL&FAX 024-563-6255  
URL <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>  
E-mail [info@beans-fukushima.or.jp](mailto:info@beans-fukushima.or.jp)

●発行日/2015年9月10日

Vol.71

NPO法人ビーンズふくしまは、不登校の子どもやひきこもりの青年などに安心できる居場所を提供し、1人1人に寄り添って、ゆるやかな社会参加を促し、その自立を支援する、若者支援の理念に基づいて事業を展開しています。

### ■猛暑が続いた福島の夏。

そんな夏の夜、7月31日、ビーンズふくしまとしては、初めて「わらじ祭り」に参加しました。

### ■今回、わらじ祭りに参加することになったいきさつは...

はじめは、今年度の総会後に行なった意見交換会。会員の皆さんや若者たちや子どもたち、スタッフが参加した意見交換会の中で、これから一緒に取り組んでみたいことがいろいろと提案されました。その中に、「お祭りに参加したい」との意見も出されていました。

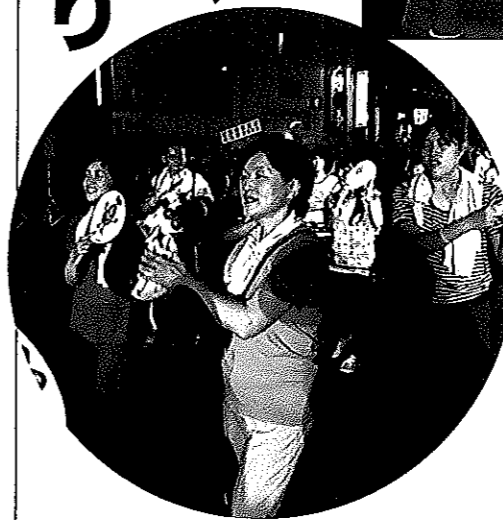
そこにタイミングよく、福島銀行さんからわらじ祭りに参加しませんかのお誘いの声が...福島銀行さんは、毎年一般の方の参加の声掛けを行っているとのことでした。わらじ祭りへの一団体の参加はハードルが高いけど、福島銀行さんの踊りに一緒に参加させていただけるなら、参加しやすいのでは。

そこで、さっそくフリースクールの保護者の皆さんに声をかけたところ、「参加しま〜す」と5人のお母さんたちが手を挙げてくださいました。そこで、フリースクールの子どもたちやスタッフと共に参加することとなったというわけです。

参加するなら、何かおそろいのものを準備した方が良いのでは、というお母さんの提案から、「まめまめくん」の絵を張った手作りうちわも準備しました。そのうちわを手に、一時間ほど踊りました。

沿道の視線を浴びながら、少しの緊張と満足感を味わいながらの時間

## みんなで何か やってみよう、 からの はじまり



でした。踊っている時、フリースクールの卒業生や元スタッフの方が声をかけてくれたりする場面もあり、とてもうれしいひと時でもありました。

終了後は、打ち上げ...参加したみんな

なで、フリースクールまで戻り、大人はビールで乾杯!(もちろん子どもたちはジュースで) 踊りに参加した興奮もあってか、打ち上げは大いに盛り上がり、途中からお父さんも参加もあり、フリースクールの夜はさらに熱く盛り上がり、「楽しかった。来年もまた参加したい」の声が上がりました。

今回の「わらじ踊り」をスタートに、これから保護者の皆さんと共に、また何か取り組んでみたい、おやまめの会では今そんな話も進んでいます。

みんなで何かやってみよう、を一歩進めることができた取り組みでした。

### 参加した保護者の方の感想は... ビーンズの暑い夜

若月さんから「わらじで踊らない?」のお誘いで始まったビーンズ初の参加でした。出張練習にまで行ってくださったスタッフから振り付けを教えて頂き、いざ本番。お揃いの豆うちわを片手に思いきり踊り、汗を流しました。皆と一緒に何かをするのって楽しい!!と実感でした。また一緒に踊りませんか。

### 福島銀行様から一言頂きました!! 市民の方125名が一緒に参加!

125名がふくぎんと一緒に参加!! 125名がふくぎんと一緒に「わらじおどり」へのご参加ありがとうございます。定員100人の募集が125名もの多くの方にご参加いただきました。ご家族でも気軽に参加していただきたいと企画したのですが、反響の大きさに驚いています。今後も福島夏の風物詩「わらじおどり」を盛り上げるためにがんばってまいります!!  
福島銀行 地域貢献室長 吉田正秋

**フリースクール事業  
サマーキャンプ**

**笑顔がはじけた日!!**

8月4、5日に行われました毎年恒例のフリースクールのサマーキャンプ。今年は桑折町にある半田山自然公園で行いました。

今回もスポーツ、水遊び、キャンプファイヤーなどプログラムで盛りだくさんのキャンプ開始!子ども、スタッフ、ボランティア全員が無我夢中になって遊んでいました。広いキャンプ場で思いきり遊ぶことの喜びと笑顔が

**子ども・若者のコメントから**

- 一言でいうと、楽しかった
- いろんなメンバーと交流ができた
- 皆と協力する大切さ、協力した後の達成感
- キャンプファイヤーや色んなことに参加できてよかったです
- 協力することがいかに大切かを学びました
- いい思い出になった!

絶えないみんなの姿が本当に楽しそう、外で遊ぶことの大切さを改めて感じました。

そして夕飯作りや朝食作りでは、子どもたちがそれぞれ自分の役割に責任を持って進めてくれました。毎回思うことですが、彼らの自主的に行動する姿、助け合う姿に感心させられます。

こうして今回も晴天に恵まれ、参加者全員が笑顔で終了する事ができました。また来年もこのような思い出いっぱいのキャンプをすることができたらと思います!



**子ども未来応援プロジェクト(県中)  
デイキャンプ**

**日帰りでも充実!デイキャンプ**

7月20日、郡山や三春の「こども広場・学習サポート」に参加している子どもたちと、デイキャンプに出掛けました。今年の行き先は「石籬ふれあい牧場」。動物と触れあうことができ、また広い牧場の中でおもいっきり遊ぶこともできる場所です。

昼食はもちろん野外炊飯。夏野菜

**みんなの感想から**

- カレーをみんなで協力して作ったのが楽しかった。
- 火おこしは初めての体験だった。
- 火の燃える勢いがすごかった。少し怖かった。
- ご飯が少し堅かったけど外で食べるカレーはおいしかった。
- またキャンプに参加したい。



カレーをつくりました。ご飯も、もちろん飯ごうで炊きました。火おこしや、かまどを使っての調理が初めての子もいましたが、他の子の様子を見たり、お互いに教え合ったり、素晴らしい団結力でした。ご飯は少し堅めで、カレーは少し水っぽい感じでしたが、両方合わせればちょうどいいくらいで、何回もおかわりする子もいました。午後は「しっぽ取り」で気持ちよく体を動かしました。その後は、動物たちとふれあったり、サイクリングしたり。閉園まで存分に楽しめた1日でした。

**子ども未来応援プロジェクト(県北)  
ハワイアンズ**

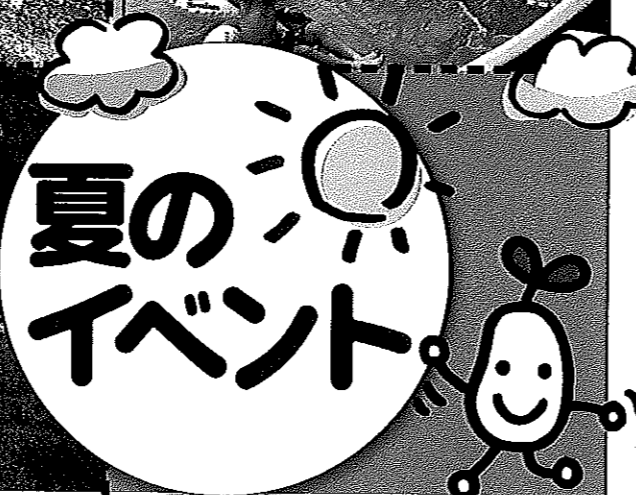
**ハワイアンズへ行ってきたよ!**

7月30日に、いわき市のスパリゾートハワイアンズへ行きました。参加者は、浪江町、富岡町などの子ども、保護者とスタッフを合わせて70名でした。今年で4回目ですが、今回も友達と一緒に目を輝かせて、力いっぱい約6時間半遊びました。今年新たに笹谷東部仮設も加わり、一層楽しい活動になりました。

参加者のアンケートからはとても

楽しかったことが分かり、「友達といっぱい遊んだ」「新しい友達ができた」などうれしかったことがたくさん挙げられています。来年は「今回来られなかった友達」と一緒に来たいと書いている子どもが20人もいました。ぜひ誘って、もっと楽しい活動にしたいものです。

この行事は、反省を加えて、子どもにとってさらに笑顔あふれる行事にしていきたいです。ふるさとを想いながら、来年もみんなで力いっぱい遊ぶ予定です。



**子どもの貧困対策支援事業  
夏期宿泊学習**

**子どもたちの成長を体感!**

子どもの貧困対策支援事業では8月21、22日の1泊2日、西郷村にあるキョロロン村にて宿泊学習を実施しました。

子どもたちは宿泊施設の施設を利用したプール遊びやアーチェリー、ゴーカート、バーベキュー等様々な体験をしました。子どもたちはどの活動でも興味を持って積極的に参加して

いました。アーチェリーでは自分の後に体験する子に弓の持ち方や狙い方などを丁寧に教えてあげたり、食事の時の準備や片づけを率先して手伝ってくれたり、少し席を外した子を気にしてスタッフに「あの子どもどうしたの?」ときいてくれたりと子どもたちが「相手を大事にしている姿」を普段の活動よりもたくさん見ることができました。雨天のため、外で予定していた花火や外遊びはできませんでしたが、それでも子どもたちは自分たちで楽しく過ごす方法を見つけて、仲間たちとの時間を有意義なものにしていました。子どもたちの成長を体感できた2日間でした。

**子どもたちの感想**

- 次は2泊3日でやってほしい。
- 来月(9月)もやってほしい。
- またこの場所でやりたい。
- 〇〇(一緒に参加した子)がアーチェリーうまかった。

**T O P I C S  
ビーンズ  
はじめて物語**

小林 良平さん  
(ビーンズ創設メンバー)

16年前、「ビーンズふくしま」は生まれました。命名の由来はというと「覚えやすくおしゃれな名前がいいね!響きがよくて、意味がある…最初か最後に「ふくしま」と地名をつけたいね。」東京シューレを見学に行き、そのネーミングのセンスのよさ、影響力の大きさを感じていた自分は、フリースクールの名前を考えて考えて…「ビーンズ」という名にたどり着きました。それぞれが可能性を持つ子どもたち、そんな子どもたちがジャックと豆の木のようにぐんぐん伸びてほしい、そんな願いをそこにこめました。

今「フリースクール」というと、公的にもかなり認められたものになっていますが、当時は「アンチ学校」的存在とみなされており、存在すらタブーのようでした。そのころからすると現在の状況は、渡世の感があります。それだけ「世の中に必要とされ続けてきた、そして今後も必要とされる」存在になったということでしょう。

そんな「ビーンズ」ですが、ある日突然福島に生まれたわけではありません。私は大学卒業後、職を辞め、「社会からはみでた」状態になりました。どこにも行き場のない自分の状況が「不登校」の子どもたちの思いと重なりました。それが始まりの思いです。

まずは設立ができるか研究をしよう!「フリースクール設立構想研究会」を立ち上げました。今の理事の中鉢さん、当時福島大学院生だった渡邊さんの3人からスタートです。福島には当時は親の会であ

る「登校拒否を考える会」に理事長の若月さんがいて、子どもたちの居場所の「でくの坊」がありました。不登校の子どもたち、そしてその親の方とともに設立の議論と、実践を重ね、寄付や協力者を募っていきました。

必要とされているものは何なのだろうか… 第一は、「不登校の子ども達の集える場所を」ということでしたが、それだけではなく、親の方や学生、地域の大人にとっての居場所にもなること。「さまざまな人が集う場所」があることが、不登校の子どもにとっても、有意な場所になるという思いにたどり着きました。そうした「場」が子どもたちに生きる力をつけていくのだと。「いろいろな人が集えること」「そこからいろいろな体験が生まれること」それが、ビーンズふくしまの原点の「力」だったと思います。医療ではない「人は人の中で人になる」「人に傷つけられた者も、人によって癒されていく」そうした自然な場だったと思います。ビーンズの原点は、人が社会で成長していくことと同じ。だからこれからも「人と人が関わる事」の意義を大切に、それがより広がっていく場であり続けることを願っています。

